

## 私のすすめるこの1冊

小栗 優貴 (社会科学科 講師)

### 『なぜ働いていると本が読めなくなるのか』

三宅 香帆 (著)

「積読(つんどく)」という言葉をご存知だろうか。

大学で働く私にとってはこの言葉はあまりポジティブな言葉ではない。「積読」とは購入したものの読まずに本が部屋に置かれている状態のこと。仕事(私の仕事の一部は本を読むこと)をサポートしているわけではないと思うが、私の研究室には「積読本」が多い。もはや積みなくなって崩れそうにもなっている。

そんな中、私はこの本に出会った。タイトルに惹かれてすぐに購入。特に本書の冒頭に記されていた「正直、本を読む時間はあったのです。…(中略)…本を開いても、目が自然と閉じてしまう。なんとなく手がスマホの SNS アプリを開いてしまう」という文章に肯首し、珍しくすぐに読み始めた。

こうした経緯や動機もあってか、一気に本を読み終えた。そして読み終わった後は、なぜだか妙な納得感とモヤモヤ感が同時に残った。その理由を本書の内容を紹介しつつ言及しよう。

納得感を覚えた理由の1つは、本書が「なぜ働いていると本が読めなくなるのか」の答えを個人の努力不足に求めるのではなく、社会の構造に求めるからである。すなわち、自分のせいではなく、社会に原因があると立論してくれるからである。本書は日本の①社会構造史、②労働史、③読書史を連動させて話が展開していく。明治大正時代には①近代化を目指す社会構造、②近代化するために立身出世が求められる労働、③立身出世のための読書だったのに対し、2010年代以降は①情報が溢れる社会構造、②情報を選択しすばやい行動が求められる労働、③不必要で新しい情報が入ってくるノイズとしての読書といった具合である。このように、歴史的にかつ社会構造的に読書ができない理由を紐解いてくれるため納得感が残るのである。

働、③立身出世のための読書だったのに対し、2010年代以降は①情報が溢れる社会構造、②情報を選択しすばやい行動が求められる労働、③不必要で新しい情報が入ってくるノイズとしての読書といった具合である。このように、歴史的にかつ社会構造的に読書ができない理由を紐解いてくれるため納得感が残るのである。

加えて、モヤモヤ感が残った理由の1つは、読書ができる状態になるために「半身社会」を提案する点にある。「半身社会」とは誤解を恐れずに言えば、労働に対して全身全霊を奨励するのではなく、そこそこ頑張ること＝半身半霊を認め合う社会を指す。「半身社会」であれば個人に余裕が生まれ、多くの情報が入ってくる読書にも心地良さを覚え、健全な社会になると筆者は主張する。私の解釈が甘く、「半身社会」とは具体的にどのような状態かははっきり分からなかったため少しモヤモヤ感は残った。しかし、半身を認めあうことで本が読めるようになり、その本が人間に新しい視点をもたらし、良い社会が形成されると解した。

本書は、書店員が選ぶノンフィクション大賞 2024 も受賞したそう。読書をしたいのにできないと感じているみなさんをエンパワメントしてくれるはず。半身半霊を大切にして、本書を一読してみませんか。そして読書ができない日本の全身全霊社会を再考してみませんか。

## イベント案内

### 企画展示 第6回教育展「楽器の世界 子どもと音楽をつなぐ楽器展」

「楽器の世界 子どもと音楽をつなぐ楽器展」と題して、本学が収蔵しているさまざまな玩具的楽器や教育用楽器について、教育という営みのなかで与えられたさまざまな機能をご紹介します。大人も子どももぜひお楽しみください。

【会期】11月1日(金)～12月23日(月)  
※11月10日(日)は藤陵祭のため開館、  
11月30日(土)は大学入試のため学  
外者入館不可  
【時間】図書館の開館日時に準じる  
【会場】附属図書館北館1階企画展示室

#### <関連イベント>

※申込方法等詳細は図書館HPをご確認ください。

#### 科学と音楽のワークショップ

「こすって鳴らす楽器のふしぎ」

【日時】11月3日(日) 13時～15時

【会場】音楽演奏室

#### 講演会

「世界は楽器に満ちている! : 楽器の起源・機能・分類とは」

【日時】12月1日(日) 13時～14時

【会場】附属図書館北館2階 研修・セミナー室1



### 後期もブックハンティングを開催します!

「図書館に置く本」を選ぶ参加者を募集します!

選書基準は通常のリクエストに準じます。

選書後は推薦文やPOPの作成にご協力ください。

【開催日時】①11月20日(水) 14:30～16:30

②11月27日(水) 14:30～16:30

※参加者はどちらか1日/現地集合(交通費支給なし)

【実施場所】丸善ジュンク堂書店京都本店(河原町BAL内)

【応募締切】11月11日(月)

【購入予算】ひとり約2万円

【対象】学部生、院生(特別専攻科を含む)

※ただし、今年度参加者は対象外

【申込方法】館内にある「申込書」をカウンターへ提出。

「Google フォーム」から申込→

【問い合わせ先】附属図書館

library@kyokyo-u.ac.jp



こちらも開催しています

京教で染めよう!

学生による作品展です。ぜひご覧ください!

【会期】11月7日(木)～11月13日(水)

【会場】北館1階企画展示室

同窓会 写真展

【会期】11月8日(金)～11月11日(月)

【会場】北館1階リフレッシュラウンジ

### eBook 全文試し読みはじまる!



対象タイトル10万冊以上!丸善雄松堂提供プラットフォーム、Maruzen eBook Library (MeL)のeBook 試読を開始します。期間は10/1(火)～11/30(土)まで、1タイトル1回あたり5分間よみ放題。

学認アカウントがあればスマホや学外からも利用できます。気に入ったものはその場で「リクエスト」することも可能!

今すぐMeLにアクセスして、読みたい本を探そう!



前期ブックハンティングで選ばれた本を展示中です!

推薦文などとともに新着図書の隣で展示しています。展示期間中も貸し出しできますので、是非ご利用ください!

【展示期間】10月16日(水)～11月30日(土)

【展示場所】1階渡り廊下



### リクエストと投票で話題の本を読もう

学習研究以外のリクエスト本を一定期間掲示し、皆さんの投票で購入する本を決定するリクエスト企画です!リクエストや投票にぜひ参加してください!

投票期間は10月2日(月)～11月18日(土)

京都教育大学  
それはかなう夢講座

「先生になりたいーそれはかなう夢」は、京都教育大学のシンボルフレーズです。「それはかなう夢講座」では、本学の教職員が、学部、大学院のすべての専攻、研究科の学生や教職員の皆さんを対象に、科学の魅力をわかりやすくお伝えしていきます。

第43回の報告

YouTubeで公開されています

【講師】山下良樹(理学科 講師)

【テーマ】放射線ってこんなに身近？基礎から応用まで

主催:「現代的ニーズを踏まえた「理系」教員養成のためのカリキュラム開発」プロジェクト委員会

後援:京都教育大学同窓会・京都教育大学附属図書館



※今までの回も  
視聴できますので、  
ぜひご覧ください！



図書館講習会のお知らせ

図書館ではさまざまな講習会を予約制で開催します。レポート・論文を執筆する前に、図書館職員から施設・サービス・資料の利用方法を聞いてみませんか？ご参加お待ちしております！

【実施期間】10月15日(火)～11月15日(金)

【申込方法】氏名・専攻・人数・希望講座・希望日時(曜日・時限(平日 11:30～17:15 まで))を明記の上、以下のメールまたは Google フォームから前日までにお申込みください。調整の上、いただいたメールアドレスに開催日時を連絡いたします。

・メール:library@kyokyo-u.ac.jp

・Google フォーム:QRコードから申込可能

【集合場所】附属図書館カウンター

※詳細は図書館 HP 等をご確認ください。



学修相談カウンター



レポートや卒論、教育実習、就活などさまざまな相談を受け付けています。

【場所】北館2階ラーニング・commons

Web フォームもあります。

時間が合わない、いきなり対面相談は緊張する、、、などの場合はフォームでの相談も受け付けています。



Web 相談フォーム

<イベント案内>

「Office ソフトお悩み相談会」

【開催日時】11月18日(月)13:30～14:30

【場所】北館2階ラーニングcommons

※申込不要、出入り自由

Word, Excel, PowerPoint などの

Office ソフトについて、

相談受け付けます！



気軽に  
おしゃべりしに  
来てくださいね



日本教育新聞電子版の閲覧ができます

日本教育新聞「記事検索データベース」サービス終了に伴い、電子版に変更しました。

毎日更新されるニュースや、日本教育新聞に掲載された過去20年分の記事を閲覧することができます。

※利用方法は図書館 HP をご確認ください。

好評開催中！ ※本学は連携参加大学です。

第12回京都・大学ミュージアム連携 スタンプラリー

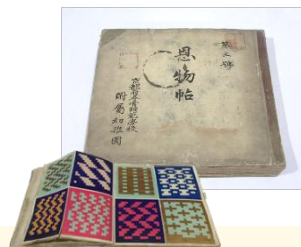
2024年9月21日(土)～2025年3月24日(月)まで

教育資料館 まなびの森ミュージアム

【11月の開館日時】

・4日(月)、18日(月)、25日(月) 14:00～17:00

・8日(金)、9日(土)、10日(日)10:00～16:00 ※藤陵祭により開館



今月の逸品(10～12月)

『恩物帖』

京都府尋常師範学校 附属幼稚園

展示場所:附属図書館

教育資料館 まなびの森ミュージアム

<https://www.kyokyo-u.ac.jp/museum/>

児童書コーナー(南館1階)



今月の絵本カード(学生作)

『もったいないばあさん』

作:真珠 まりこ

出版社:講談社



※児童書コーナーにかわいいカードが飾られていますので、ぜひ見に来てください。

## 論のくちび理のむすび

今回の執筆者 **荻野 雄** (社会科学科 教授)

### ジンメル『レンブラント』(2)―「生の哲学」の芸術創造論―

荻野 雄

京都教育大学紀要 2024, No.145, pp. 39-54  
URI:<http://hdl.handle.net/20.500.12176/9874>



ジンメル(1858~1918)は生の哲学で、フッサール(1859~1938)の現象学と非常に似た仕方で近代的世界観からの転換を試みました。それを示すことが本稿の主題の一つだったので、ここでは現象学について簡単に説明します。

近代的な世界観では、主観はいわば現実の世界からは遮断された「箱」と捉えられ、外部の対象を認識するとき、主観はそれらの対象の情報を感官を通じて自身の中に取り込んで、それらから対象の模像を組み立てている、と考えられています。しかしそうすると、現実の対象と主観内の模像とは本当に合致しているのかという、原理的に解決不可能な問題が生じてしまいます。

それに対して、主観は本質的に能動的な作用、必ず何らかの対象を巻き込んでいる機能であり、だから主観は初めから外にいて対象と関わっている、ということが、フッサールの根本洞察です。常に対象と一体である主観の機能とは、我々に対して客体を出現させることです。例えば音は聴覚器官によって成立するように、対象の存在は主観の作用を条件として、初めて我々に現われてきます。とはいえ我々は現実の対象の模像を内面で組み立てる、というのではなく、主観が成立させている対象は、そのまま現実の対象それ自体です。詳しく言えば、対象の一側面が直接に自己を呈示する受動的な知覚経験(「現象」と同時に、意識や身体の能動的な働きが、それを独立した自体存在へと構成しているのです。我々が客観的に存在するものとして見出す対象は、逆説的にも主観のこうした働きによって支えられており、この潜在的な主観の作用を掘り起こしていくことこそが現象学の使命です。いいかえればフッサールは、近代的な世界観を克服するため、根本経験である現象から、いかにして世界とそれから切り離された主観という「虚構」の枠組みが派生したのかを問うたのです。

※本タイトルの論文は京都教育大学紀要 145 号に掲載されています。

※京都教育大学リポジトリクエリ(KUERe)の森J<https://ir.kyokyo-u.ac.jp/>に掲載されています。

### 開館日程

□9:00-20:00 ■9:00-17:00 ■10:00-17:00 ■休館(CLOSED)

2024年11月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

11/6 館内整理日  
11/8-10 藤陵祭  
11/30 推薦入試(学外者利用不可)

※開館日程につきましては、変更となる場合がございますのでホームページをご確認ください。

2024年12月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

12/7 学校推薦選抜入試  
12/24-1/6 冬季休業

●京都教育大学附属図書館ホームページ  
<https://www.kyokyo-u.ac.jp/library/>  
(QRコード→)



京教図書館 News No.290 (2024年11月号)  
発行日:2024年11月1日  
編集発行:京都教育大学附属図書館  
問い合わせ先: [library@kyokyo-u.ac.jp](mailto:library@kyokyo-u.ac.jp)

国立大学法人  
**京都教育大学**  
KYOTO UNIVERSITY OF EDUCATION